

# 1年 国語 シラバス

## 1 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通りに育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

## 2 教科における重点目標等

登場人物の心情や段落の役割を考える際などに行う話し合い活動を通して、根拠をもとに伝え合う力を育成するとともに、他人の意見に耳を傾けて自分の意見を修正し、主張できる力を育成する。

## 3 学力を向上させる方法

### (1) 聞く・話す力

話は集中して聴く。要点を押さえてメモをとる。話すときは、単語ではなく文章で伝える。話すときは結論から述べ、その根拠や理由を付け加える。

### (2) 読む力

日ごろから読書に親しむようにする。音読をつづける。文学的文章では、情景・心情描写に気をつけ、説明的文章では、論理の展開に気をつけて自分の考えをもつようにする。

### (3) 書く力

日ごろから語彙を増やすよう心がける。「誰に対して、何を伝えるために書くのか」を意識してまとめるようにする。自分の考えや気持ちについて根拠を明確に書くようにする。

## 4 評価の観点

評価の観点	観点の内容	評価の方法
知識・技能	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	テスト、作文やワークシート等の内容
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わり合いの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	テスト・授業中の発言や話す・聞く態度、グループやクラス全体での話し合いの様子、作文やワークシート等の内容
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使うようとしている。	授業態度・挙手発言・ノートやワークシート、ワーク等の記入提出

## 5 家庭学習の仕方

- (1) 教科書を音読し、読めない漢字やわからない言葉を調べておく。
- (2) 授業でのノートやワークシートを読み返し、学んだことの復習をする。
- (3) 単元が終わったら確認でワークに取り組み、苦手な部分の直しをする。
- (4) 漢字は、学習したものをどんどん使う。覚えにくいものは、反復してマスターする。
- (5) 新聞の社説などをノートに写し、自分の考えを書く。

## 6 年間学習予定

学期	単元名	学習のポイント
1 学 期	言葉に出会うために シンジュン 情報を的確に聞き取る わかりやすく説明する 漢字の組み立てと部首 ダイコンは大きな根？ 硬筆 ちょっと立ち止まって スピーチで紹介する 言葉のまとまりを考えよう 詩の世界 比喩で広がる言葉の世界 指示する語句と接続する語句 読書を楽しむ 本の世界を広げよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しをもつ。</li> <li>・登場人物の心情や行動に注目して読む。</li> <li>・比較や分類、関係づけなど情報を整理する。</li> <li>・集めた情報を整理して使う。</li> <li>・組み立てと部首について理解する。</li> <li>・事実と意見の関係などを捉える。</li> <li>・硬筆ペンを使って丁寧に書く。</li> <li>・文章の構成に注意して読む。</li> <li>・観点を決めて書く。</li> <li>・単語の類別について理解する。</li> <li>・豊かな言葉の世界を楽しむ。</li> <li>・比喩などの表現技法を理解して使う。</li> <li>・指示語、接続語の役割を理解する。</li> <li>・読書を楽しむ。</li> <li>・友達に読書紹介をする。</li> </ul>
2 学 期	大人になれなかった弟たちに 星の花が降るころに 聞き上手になろう 案内文を書く 方言と共通語 漢字の音訓 「言葉」をもつ鳥シジュウカラ 根拠を示して説明しよう グループディスカッション いろは歌 古典の世界 蓬莱の玉の枝 故事成語 書き初め 言葉の関係を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識や情報を得て、自分の考えを広げる。</li> <li>・文章中の表現に注目して読む。</li> <li>・話す速度や音量に気を付けて話す。</li> <li>・身の回りの案内文を参考にして書く。</li> <li>・共通語と方言の果たす役割について理解する。</li> <li>・漢字の音訓を正しく読む。</li> <li>・筆者の記述した事実と仮説を読み取る。</li> <li>・資料やデータを選び、出典に気を付け引用する。</li> <li>・話題や議論の流れを的確にとらえて話し合う。</li> <li>・音読をして古典の世界に親しむ。</li> <li>・文語のきまりや訓読の仕方を知る。</li> <li>・故事成語の意味と使い方を知る。</li> <li>・毛筆を使って丁寧に書く。</li> <li>・単語の類別を理解する。</li> </ul>
3 学 期	作品の書評を書く 少年の日の思い出 単語の性質を見つけよう 体験を基に随筆を書く さまざまな表現技法 漢字の成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の文章の改善点や良い点を見出す。</li> <li>・文章の構成や表現の効果を考えて読む。</li> <li>・品詞や体言と用言について理解を深める。</li> <li>・体験を踏まえて、随筆を書く。</li> <li>・様々な表現技法を理解する。</li> <li>・漢字の成り立ちについて理解を深める。</li> </ul>